

平成29年 1月19日

平成29年

第1回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

## 平成29年第1回大田区教育委員会定例会会議録

平成29年1月19日（木曜日）午後2時から

### 1 出席委員（6名）

藤崎雄三	委員	委員長
横川敏男	委員	委員長職務代理者
鈴木清子	委員	
尾形威	委員	
芳賀淳	委員	
津村正純	委員	教育長

### 2 出席職員（10名）

教育総務部長	水井靖
教育総務課長	井上隆義
副参事（教育政策担当）	曾根暁子
副参事（教育施設担当）	布施満
学務課長	森岡剛
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	増田亮
副参事	田井俊行
学校職員担当課長	佐藤國治
教育センター所長	岩田美恵子
大田図書館長	山中秀一

### 3 日程

日程第1 部課長の報告事項

~~~~~

（午後2時開会）

#### ○委員長

ただいまから、平成29年第1回大田区教育委員会定例会を開会いたします。  
本日は傍聴人希望があります。  
委員の皆様は傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

#### ○委員長

傍聴を許可いたします。

（傍聴者入室）

## ○委員長

傍聴者の方をお願い申し上げます。

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力よろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しております。

まず、会議録署名委員に横川委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

## ○事務局職員

日程第1は、「部課長の報告事項」でございます。

## ○委員長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

## ○指導課長

私、指導課長並びに幼児教育センター所長の増田からご報告いたします。

本日は「体力の向上」についてお話をさせていただく機会をいただきました。ありがとうございます。

大田区の児童・生徒の体力の状況、それから「おおた教育振興プラン2014体力向上アクションプランの成果指標」が、今、どこまで進んでいるのか。幼、小、中の取り組み、そして駅伝などの取り組みについてお話させていただきます。

(パワーポイントにて説明)

まず、現状についてお話を申し上げたいのですが、「東京都統一体力テスト」の中身については、お手元に資料を配布させていただきました。種目については小学校が8種目。中学校は小学校の種目に持久走を加えた9種目です。シャトルラン（往復持久走）など、私たちが子どもの頃、やっていなかった種目も入っております。どのような内容かは、後程見ていただければと思います。

では、「東京都統一体力テスト」の結果について、ご説明します。

お手元のA3判の一覧表とこちらのパワーポイントの両方を見ながら説明させていただきます。

さて、毎年6月に、『東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査』というのをやっておりますが、おおたっ子の体力は、今、どういう状況かということ、その結果からまずお話をしたいと思っております。これは今年度の結果でございます。都の結果、区の結果、そして参考に昨年度の区の結果を一覧の表にしています。

濃い網掛けのところ、都の平均よりも区の平均が上回っている、つまり都よりも記録

がよかったというところでございます。また、薄い網掛けのところは、区の結果を前年度と今年度で比較し、今年度が伸びているところ、つまり、記録が上がったところでございます。

そこで、まず、注目していただきたいのは、この一番右側の「体力合計点」です。種目によって長さであったり、距離であったり、時間だったりそれぞれ単位が違いますので、それを押しなべて総合的に点数にしているのが、「体力合計点」と言われるところです。小学校第6学年、中学校第3学年。それぞれ男女別で統計を取っていますので、全部で18項目ございます。そのうちの薄い網掛けが17項目あります。中3男子だけは、残念ながら、前年度の結果よりも下回っているのですが、18項目中17項目が、昨年度より今年度の記録が上回っております。それは、各学校の前年度から今年度への1年間の取り組みの成果が、この結果に出ているのだらうと推察できます。

一方、各種目についてですが、全部で150ございます。先ほど申し上げたように、薄い網掛けのものは前年度よりも上がっている、記録が伸びているところでございます。それを一つ一つ数えていきますと、150のうち、114種目が薄い網掛けになっておりますので、76%、8割弱の種目で昨年度より記録が上回っているということでございます。

次に、おたっ子ほどの種目が得意かなというのを見てみたいと思います。得意なものですが、「ボール投げ」については、小学校は男の子も女の子も全部の学年が、都の平均よりも上回っている。ボールを投げるのが得意なのが本区の小学生でございます。

「長座体前屈」は、長座の形で段ボール箱を押して、何センチ押せたかというのを調べるのですけれども、前にかがむのはとても得意だということでございます。

さらには、「反復横跳び」。2本の線を右、左、行ったり来たりするのも、多くの項目で濃い網掛けになっておりますので、都の平均を上回っているということですので、得意なほうかなと思っております。

一方、何が苦手かというのは、単純に言うと濃い網掛けが少ない種目でございます。「長座体前屈」は得意なのですが、しゃがんだまま腹筋を上げる「上体起こし」が不得意だということです。

あとは、「持久走」、「シャトルラン」、「50m走」です。短距離であっても、持久走であっても、走るのが苦手なのが、おたっ子でございます。

さて、大田区では、平成26年に策定した『おおた教育振興プラン2014』の6つの重点施策のひとつに「体力向上アクションプラン」を位置づけております。これらのアクションプランは、それぞれ指標を決めて、最終年度の平成30年度の目標値を決めて、そこに向かって5年間頑張っていこうというものですが、5年計画の3年次でございますので、ちょうどマラソンでいうと、折り返し点を過ぎて5分の3をもうすぐ走り切るという状況です。

ここで「体力向上」についてどうかをまず、お話をさせていただきたいと思います。

平成25年度計画立案時の「体力合計点」の、30年度の目標値は、男子は60.21、女子が60.15でございました。この値は、実は平成25年度に計画を立てたときの全国平均値でございます。つまり、おたっ子の体力は、当時も今も全国平均値にまだ達していないので、そこを目指して頑張っていこうということでございます。そこで、経年で見てまいりますと、残念ながら平成27年度、昨年度だけは若干記録が落ちておりますが、今年度また、記

録を挽回しています。全体的に見れば30年度の目標値に向けて、着々と一歩ずつ何とか上っているという傾向でございます。29年度があり、30年度の目標値に向けて、各学校の先生方とともに取り組んでいきたいという現状でございます。

次に、これから大田区教育委員会並びにそれぞれの保育園、幼稚園、公立小学校、中学校が、どんなことをやっているかということを具体的にお話いたします。

これから出てくる重点事項というのは、実は平成27年12月12日に東京都教育庁から、『オリンピックをやる東京都の子どもの体力が低い。これは何とかしないといけない』と、東京都としても推進していくから、区市町村も協力してやってくださいという主旨で示されたものです。大田区も当然積極的にやっていくわけですが、幼児期、小学校、中学校のとき、こんなことを重点にやっていきたいという項目を、大田区なりに整理したものがこれでございます。

### 幼児期の重点事項

○自発的に体を動かしたくなる環境を整える。

○実際に体を動かす時間を確保する。

幼児期に、大田区として取り組んでいきたいのは、「自発的に体を動かしたくなる環境を整える。」です。幼児ですから自発的というのはなかなか難しいところもあるのですが、当然保護者の方とともに、やっていただきたいと思っています。

次の「実際に体を動かす時間をある程度確保する」ということは、時間を確保するのは大人の問題であり、どんなことをやるかという保護者や大人や指導者がそのことを知らなければいけないということなので、幾つかの取り組みをしています。

幼児教育センターの取り組みについて申し上げます。例えば、運動遊びについての取り組みとしては、研修会を幾つかやっております。この写真は、その中の一場面を切り取っているのですが、これは「一本橋渡り」です。最初は、地面にただロープを置いて、一本橋として渡ります。幼児ですから、ただ「渡りなさい。」「はい、順番に。」「はい、ピー。」なんていうことでは、子どもたちは動きません。幼稚園児、保育園児は『ごっこ遊び』が大好きですから、例えば『探検隊』などと場の設定をして、「森の中に入っていきますよ、おっ、ここに川があるね。」「川を渡るから、絶対川に落ちないように。」などと、ストーリーを上手に指導者が作り、雰囲気をつくった上で、バランスを体験させていきます。

そして、床についているロープをほんのちょっとだけかさ上げをして、少し難しくして歩かせると、小学校に上がった時の平均台の活動につながっていく基礎づくりとなります。

次にこの写真は、「くまさん歩き」というのですが、これは「森の中のくまさんになったつもりで歩いてみましょう」と、ノシノシやっているところでございます。

向こうでは、「カエルジャンプ」をやらせています。ぴよこたん、ぴよこたん行くのですけれど、クマさん歩きよりも瞬間に飛んだりするので、技術的には一つ上に上がっているのです。高度なのです。そういうことを上手に遊ばせながら、楽しませながらやっていくということを研修では行っています。この写真もいろいろな場面想定でやっていると思います。多分リレーみたいな要素を取り入れているのだと思います。

この写真は、「リバーストーン」という名前の教材です。リバーストーン、川にある石、つまり「川に落ちないように石の上を渡ってごらん」というようなイメージでやっているわけです。これもただ、「ここを渡りなさい」ということではなくて、上手に場の設定をして雰囲気を作りながらやっていきます。「川の中にはワニさんがいるから、落ちたら食べられちゃうよ。」とかなんとか言いながら、わあ、わあ、わあ、わあ、楽しみながらやっていくのです。このような教材でございます。

次の写真は、寝ながら動いたりする「イモムシゴロゴロ」と言います。またこれは「レスキュー隊」といって、ここにロープなどを持たせます。実際はレスキュー隊のように幼児が動くというのは不可能ですから、そのような気分にならせて楽しませて遊ばせるというようなものでございます。

さらには、これは鉄棒遊びにつなげるための「すずめのポーズ」と言うのだそうですが、高さを体験させているのです。高さを経験するとか、逆さまになるとかという経験がない幼児期を過ごしてしまうと、小学校に上がってから逆上がりやりましようと言っても、それは無理なんです。やっぱり幼児期の間にいろいろなことを経験させていかななくては難しいのです。当然、安全面には、十分配慮をしながら行います。

この写真は、幼児教育センターがやっている研修会の「家庭教育支援講座」ですが、親子で参加をしていただいているものでございます。先ほどでいうところの逆さ感覚ですね。これは、先ほどの「くまさん歩き」を親子でやっているところです。「親子のくまさんになって、お散歩しよう」という場面設定だったというふうに記憶しています。「滝がある」とか、「雨が降ってきた」とか、いろいろな場面を設定し、キャーとか言いながら、親子で楽しそうにやっておりました。

この写真は、さきほど申し上げた高さを経験させているところです。赤ちゃんや幼児を「高い高い」とやるのは、その後の運動につながっていく大変貴重な経験なのだろうと思います。そういうノウハウがないこの状況の中では、あえて幼児教育センターで研修として保護者の方や、先生方にお伝えをしているということでございます。

次も幼児教育センターがやっている保育士、幼稚園教諭向けの「運動遊び研修会」でございます。こちら「イモムシゴロゴロ」と、「くまさん歩き」を一緒にやったらどうなるかという実験です。若い先生も、ベテランの先生もいらっしゃったのですが、結構大人がやってみても楽しくて、最初何となく初対面同士で、かたい感じの研修会のスタートだったのでどうなるのかなと思って見ておりましたが、後半は体を動かすことによって、本当に楽しそうにやっておりました。これはバランスボールを、二人で協力をしながら運ぶというような、子どもにこういう活動をさせたいなということを、先生方や保護者にお伝えをしているところでございます。

このようなことをやっておりましたら、東京都教育委員会で発行している「とうきょうの地域教育」という冊子に取り上げていただきまして、大田区が自治体としてやっていることをすごくかっただけいただきました。ありがたいなと思っています。

小学生でございます。

#### 小学生の重点事項

○体力向上の原則である基本的な生活習慣の定着を図る。

## ○運動そのものの楽しさを味わわせ、継続的に運動に取り組ませる。

まずは、体力向上の基盤である、「基本的な生活習慣の定着を図る。」ことです。「早寝、早起き、朝ごはん」など、基本的な生活ができてないところで、「体力向上に取り組もう！」と言っても、それは無理な話なんですね。ですから、まず「早寝、早起き、朝ごはん」をきちんとやるように啓発していきたい。

それから「運動そのものの楽しさを味わわせ、継続的に運動をさせる。」です。教育研究推進校に指定をして、「こういう経験を小学校のときにできないか」という視点で研究をしていただいている学校の幾つかの事例を申し上げます。

最初に梅田小学校です。昨年11月10日に研究発表を終えたばかりでございますが、区の教育研究推進校としていろいろ取り組んでいただきました。

例えばこちらですけれども、これは「ティーボール」といいます。野球やソフトボールというのは、ピッチャーが投げたボールを打つというものです。動いているものを打つというのは、経験のない子にとっては極めて難しいことなのです。いきなりソフトボールやろう、三角ベースやろうって言うてもなかなかできないんです。そこで、誰でも打てるように、ティーの上にボールがあってそれをぼんと打つ。初めての子どもにとっては、それでさえなかなか当たりませんが、このような工夫をしています。

これはバスケットボールより低目のゴールがある「セストボール」といいます。バスケットボールのようなものですが、バスケットボールは、ボールが大きくて重くてゴールも高いので、いきなり体育館でやろうと言っても経験のない子は無理でございます。このように誰でも楽しめるような活動を、いろいろ研究し取り組んでいただいたのが梅田小学校でございます。

ちなみにこちら二つの写真は、体ほぐしでやったダンスですが、こちらはEXILEですね、このように子どもが大好きなポーズを使ったダンスを取り入れています。下のほうは、これ「ラディアン」って言うのですが、体幹を意識しながら行います。体幹という胴体部分を鍛えるというのは、今のスポーツの大きな流れになっておりまして、後ほど申し上げる千鳥小学校も含めて、脳を鍛えながら体幹を鍛えるような、脳と体幹を意識しながら体力向上に取り組んでいるという学校も幾つかございます。

田園調布小学校にも取り組んでいただきました。たまたまこの日に雨が降ってしまいまして、校庭の体育ができなかったという中での研究発表会でございます。

これはソフトバレーボールです。バレーボールのあの大きなボールを、落とさないように3回で相手コートに戻すなんてことは、なかなか子どもにはできません。本当のビーチボールを使ったビーチバレーですとか、誰でもできるような取り組みをしているのが、このソフトバレーボールです。あとこれは開脚後転をやっているところです。鬼ごっこも含めて、誰でも楽しめるようないろんな活動を開発して、子どもたちに伝えている、先生たちにやっていただいているとこういうところでございます。

中学校です。

### 中学校の重点事項

○生涯にわたり運動する習慣が付くよう、保健体育授業において基礎的な知識及び技能を身に付けさせる。

## ○運動部活動・スポーツクラブに所属していない生徒の運動時間を確保する 取組を工夫する。

中学校では生涯スポーツの視点で取り組ませたいというふうに思っています。

さらに、今、問題になっているのは、運動部の子どもたちは運動はするのですが、運動部に入っていない子どもたちの体力が落ちている、運動の機会がないということです。

そこで、今年度『スーパーアクティブスクール』を、石川台中学校に指定してやっていただいています。大学の専門の先生によるご指導はもちろんですが、楽しめる種目に取り組んでいただきました。

楽しめる種目というのは、例えば「バブルサッカー」をご存知でしょうか。よくバラエティ番組などでやっているのを見たことがあると思いますが、大きな風船の中に入ってサッカーをやる。やってみると本当に面白く、転んでもボヨヨンって戻るような、そんな大きな風船の中に入ってサッカーをするものです。「イモムシラグビー」というのは、イモムシのように地べたに這いつくばりながらラグビーをします。これは、かなりの運動量があるのですが、実はそんなに広いスペースも要らないのです。それから「ボッチャ」というのは、リオパラリンピックでの種目になりましたが、白いボールに向けて、色つきのボールを投げて、その距離を競う、そんなゲームです。また「キンボール」というのは、大玉送りで使うくらいの大きなボールを、みんなで協力して扱うゲームです。このような新たな取り組みをすることで、運動部に入っていない子どもたちへの体力向上を、石川台中学校では取り組んでいただいたところです。

これが放課後の体づくり運動ということでございました。

来年度については、大田区内全部の中学校を「アクティブスクール」として指定をさせていただいて、石川台中学校での成果を広げていきたいと考えています。

今年度の「体力向上に係るその他の指定校」といたしましては、「体力向上モデル校」がございます。

小学校については、今年度も指定をさせていただいた学校に「体育指導補助員」を配置し、低学年の体育のサポートに入らせていただいています。この体育指導補助員は、先生をサポートする補助員ということですが、多くの場合は、大学で体育専門の教員志望の方ですが、実際に入っている学校からは、大変ありがたいと聞いています。低学年ですから、一人一人いろいろな状況があります。けんかしたり、泣いたりして授業が中断することもあるのですが、補助員がいると、子どもたちへの指導のサポートに入ったり見本を見せてくれたりするのはもちろん、道具の準備や片づけのフォローをしてもらっています。

また、それぞれの学校では、体育健康教育授業地区公開講座ということで、取り組みを保護者や地域とともに広げていくというようなこともやらせていただいているところでございます。

次に、先ほどちょっと申し上げました「体幹を鍛える」ということに特化して取り組んでいただいたのが、千鳥小学校でございます。体幹ということで、ほふく前進をする、胴体を意識して“く”の字にする「くの字運動」、S字にする運動。私、うまくできませんけれど。それから先ほどの「ラディアン」ですね。脳と体幹を刺激して行います。今まで



やっていることとかなり重なっている部分はあるのですが、新たな視点で取り組んでいただいたのが、千鳥小学校でございました。

あと、オリパラも、今、進んでおります。「オリンピック・パラリンピック東京2020大会」に向けて取り組んでいるところですが、大田区においても積極的にすすめているところでございます。

「東京ユースボランティア」「スマイルプロジェクト」「夢・未来プロジェクト」「世界ともだちプロジェクト」という四つのアクションで取り組んでいるところですが、幾つか視点があります。決して体力向上だけではありません。それに有名人、オリンピック選手を呼ぶことだけがオリパラということでもありません。いろいろな取り組みの中のごく一部が、この位置づけです。今日は体力向上ということですので、スポーツということで、お話をさせていただきます。

四つのプロジェクトの中の三つ目、「夢・未来プロジェクト」という中で、オリンピックの経験者などを呼んでお話をさせていただくというところは、体力向上に大きくつながっているだろうと私は思っているのです。「トップアスリート派遣」という区の事業と合わせて、いろんなオリンピック選手などを多くの学校で呼んでいます。

嶺町小学校では、リオのパラリンピックで視覚障害水泳男子で、自由形などで銀メダル二つ、銅メダル二つ、あわせて四つのメダルを獲得した木村敬一選手が子どもたちに話をしています。これは東京新聞に取り上げていただきました。感動したのが「追い込まれたときに本当の自分の姿がわかる。」と自分のスポーツの経験を通してお話をされています。私が聞いているところでは、「自分は2歳から目が不自由で見えなかった。目が見える世界を体験していないことが私は幸せだった。むしろ目が見えなくなっている自分を落ち込むのではなくて、目が見えないことが当たり前で、何をどうすればいいかという中で自分は努力してきた。」とお話しいただいています。子どもたちに響く訴えを聞くことで、やはり人の生き方にもつながる、スポーツを通してそのような教育も、今、進めさせていただいているところでございます。

次の写真は、昨年度のものしかなかったのですが、六郷小学校、元なでしこジャパンの矢野選手が来たときの様子でございます。ちょっとしたリフティング、ちょっとしたシュート。これを見るだけで子どもは憧れの目でスポーツ選手を見ます。どれだけ子どもたちにきっかけづくりができるか、種をまけるのかというのも義務教育の中での一つの役割だろうと、実践を見て思います。

最後にまとめですけれど、これからもおたっ子の体力の向上に積極的に教育委員会として関わっていきたいと思っているのですが、やはり、「楽しく」「親しめる」「いつでもできる」「継続してできる」「憧れをもってできる」が大事だと思うのです。そして私は、このあたりを義務教育や幼児教育で体験させてあげたい部分だと思うのです。私の小さいころに『巨人の星』というアニメがございました。「思い込んだら試練の道を」ですよ。「行くが男のど根性」なんです。「血の汗流せ、涙を拭くな」でしたでしょうか。ちょっと歌詞忘れてしまいましたけど、いわゆる根性論で、ごく一部の人間が、そこをやり切った人間だけがスポーツができる、体力向上が図れるということではないと考えていま

す。もちろん一部のスポーツ選手、オリンピックを目指している人たちはそういう場面もあるでしょう。しかしながら、義務教育として取り組むべきことは、みんなが楽しくできる、そういうきっかけをどれだけつくってあげられるかということがポイントであると思っております。

そして、その一つの取り組みが「大田区小学生駅伝」でございます。こちらをご覧ください。

先日12月17日に実施しました。この写真は馬込小学校ですね。大会新記録でゴールした瞬間でございます。「どんなもんだい」といううれしそうな表情と、2位の入新井第二の子どもが、「ああ残念だ」というその瞬間を切り取っていただきました。この駅伝大会は各学校の代表選手が走っているわけですが、代表選手を鍛えるという視点だけではなく、この代表選手を選ぶまでのプロセスで、例えば「全校マラソン大会をやる」とか、「朝マラソンに取り組む」とか、「走る〇〇週間をつくる」とかという、区内すべての子どもたちが取り組んでいく中でのきっかけに駅伝大会がなればいいなという願いでやっているところでございます。

タスキをつなぐというのは、本当に私たちの心に響くと感じています。正月の2日、3日「箱根駅伝」であれだけ盛り上がるのはどうしてなのだろうと思うのですが、やはり力をあわせて、一つの目標に向かってやり切る。これは「体力向上」だけではない、大きな、大きな教育的な意味があると思っているところでございます。

なお、中学生の駅伝大会が2月5日、日曜日に開催予定でございます。今、駅伝チームが頑張っているところでございます。

雑駁でございますが、体力向上について現状と、今、取り組んでいることを、簡単にお話させていただきました。ご清聴ありがとうございました。

## ○委員長

指導課長、ありがとうございました。

ただいまの報告にご意見、ご質問等あればお伺いしますがいかがでしょうか。

## ○芳賀委員

体力向上について、いろんな取り組みを見せていただきまして、ありがとうございました。私が小学校の学校公開などに行くと、いわゆる20分休みや、昼休みに先生方がいっぱい外に出てくださって、子どもたちと一緒に遊んでくださっている。あるいは大縄跳びやったりしているのを見ていて、自分の子どものころよりずっと校庭に出ている先生が多いなと思って感心しています。

この体力調査の結果の数字全体を見たときに、もちろん種目ごとの差はありますが、大ざっぱな傾向として、小学校のほうが比較的、都平均を上回っていると思いましたが、中学になるとやや下回るのが多いという傾向がはっきり出ていると思いましたが、それについては、どんなふうに分析していらっしゃるんですか。

## ○指導課長

実は、私たちも、この結果が出てすぐそれが気になったところでございまして、小学校

はある程度成果が出ているけど、中学校はなかなか成果が出てなくて、何が違うんだろうということについて、様々なデータを調べました。

「部活動の加入率」も、「運動が好き、嫌い、肯定的、否定的な回答率」も、「一週間の運動時間の平均」も東京都とほとんど変わりませんでした。では、何が違うのかを改めて調べたところ、平日の運動時間が少なく、土曜日、日曜日の運動時間が多いということがわかりました。これは、恐らく部活動に参加している子どもたちがこの値を引き上げているのだと思っています。また、東京都の値と差が見られたところは、「テレビの視聴時間」と「携帯の視聴時間」でございました。つまり、大田区の子どもたちはテレビをよく見て、携帯をよく使っているというところがございます。恐らくそのあたりが、関係があるのかなということがございます。そういう分析をしていたところに、たまたま、新聞に東京都の分析が出ておまして、やはり東京都もスマートフォンは全国と比べて、使っている時間が多いということが運動不足につながっているのではないかとありました。これは一部新聞に出ていることで、都教委が正式に発表している値ではないのですが、恐らく都以上に大田区は、スマートフォンや携帯やテレビを見る時間が多いというのが、この調査の中で分析して明らかになったというふうに思っています。以上です。

### ○委員長

時間の配分という問題ですね。1日の中の使っている時間が、体を動かす時間に比べて、体を動かさない時間、つまり携帯やテレビなどにもっていかれているほうが多いのではないかと、そういうことですね。

### ○指導課長

大田区の子どもは、テレビも携帯も3時間以上、使っている、見ているという割合が東京都と比べて多かったという状況でございました。

### ○委員長

3時間以上ですか。

他に何かご質問、感想とかありますか。

### ○尾形委員

ありがとうございました。私も昨日、大田区のある学校で研究授業があつて、講師としてお邪魔したのですが、各学校では、大田区の教育方針に沿って一生懸命やっているという姿が見えて、とてもありがたいなと思いました。

体力向上や体育、保健体育の授業の充実は、ご報告いただきましたように、本区の重要課題の一つだというふうに思います。

私は今月、8校の学校を、学校訪問や授業参観をさせていただきました。そこからちょっと見えてきたものというものの話をさせてください。

端的に申し上げますと、本当に区の方針に沿って、学校が一致協力して積極的に体力向上を進めているという実感を持ちました。

第一に芳賀委員からも、今、お話があったように、休み時間とか、放課後に多くの先生

方が校庭で子どもたちと一緒に遊んでいる姿があります。外に出て「体を動かすこと」や「運動する楽しさ、喜びを味わわせる」という意味でとてもありがたいなと思います。先生方が率先して、外遊びの楽しさを教えているというふうに思いました。

第二に、「体育、保健体育の授業の充実に努めている」と思いました。本区のこの課題を受けて、先ほど指導課長からもお話があったように、多くの学校で体力向上を重点とした研究を進めております。まず、授業では体の動かし方や、うまくなるための指導のコツ、ポイントを明確にし、わかった、そしてできたという授業を目指して実践しております。そしてこの授業が、児童生徒の運動の日常化につながっていったらいいと思います。

第三は、本区は「体力向上モデル校」をたくさん指定しております。そして、積極的に保護者や地域の体力向上に関する意識を啓発し、家庭や地域ぐるみで体力向上に努めています。やはり体力向上は学校だけではできないので、やはり家庭・地域と一体になって、一步一步前進しているとそんな感じを持っています。

第四に、「学校だより」や「保健だより」、そして「学年だより」などで、家庭に対して児童生徒の正しい生活習慣の徹底を啓発していると思います。規則正しい生活習慣が身につけている子どもは、体力も高いという傾向は出ております。体を動かすこと、それから毎日朝食を食べること、睡眠時間を確保すること、テレビ、スマホ視聴時間を適切にすることなど、子どもたちに指導するとともに、保護者に積極的に啓発しております。ぜひ家庭でも、このようなルールを家庭ルールとして決めて、生活習慣の徹底を図ってほしいと思っています。

第五に、児童の体力の実態を把握し、先ほどもありましたように始業前や休み時間、放課後の運動や体育的行事における日常的な体力づくりの取り組みを通して、体を動かすこと、体を動かすというのは楽しいという習慣化を図るとともに、体力の向上を図っております。

私が1月に訪問した学校では、中学校では始業前に持久走をやっておりました。そして、小学校では、20分休みが終わった後、全校児童、そして先生方が一緒になって、持久走をやっていて、本当に大田区の児童の実態にあった体力づくりをしていると感じました。

以上です。

## ○委員長

ありがとうございます。他に何かありますか。

## ○横川委員

大変勉強になりました。ありがとうございました。

なかなか難しいかもしれませんが、今後、この「体力の向上」と、「学校の欠席率」いわゆる疾病と結び付けたらおもしろいのではないかと思います。どういう形で結びつけていけばいいのかわかりませんが、「体力が伸びてきたこと」と、保健上の「疾病の欠席率が下がってきた」ことの相関関係を検討してみると、かなりおもしろいのではないのかと思います。

ちょっとした感想でございます。

## ○指導課長

ありがとうございます。

## ○鈴木委員

今、皆さんがお話しいただいたものについては、同じように考えております。指導課長のご報告、非常によくわかりました。ありがとうございます。

幼児教育の時期から、熱心に地域を含めた中でやってこられているなど感じております。実は私自身、0歳から3歳までのお手伝いをしています。今日も午前中はちょっとそこへ出てきたのですが、そういった地域との連動、連携を大切にしていけることが大事だと思います。いきなり小学校に入ってから様々なことをやっていくというのはなかなか難しいと思うのです。ですので、最終的には学校と家庭と地域でしっかりと連動をして、積み上げていくというのは、とても大事だということをつくづく感じております。

もう一つ、中学校の部活のことです。今、皆さんが関心を持っていると思われるのは、部活は非常に多岐にわたるようになったことです。部活だからといって、必ずしも、運動だけをやっているわけではなくて、文化的なものもたくさんやられるようになってきていますが、運動部に入っている子どもの人数はどうなのかなということが一つです。文化的に音楽なども増えてきていますので、たくさんの種類の部活がある中、一つの学校ではどのぐらいの種類の部活をやってらっしゃるのか、わかる範囲で結構ですから教えていただけませんか。

## ○田井副参事

学校の生徒数によっても、設置している部活動の数は様々なので、一概には言えないのですが、最近の傾向としては、大きく二つあって、一つは鈴木委員がおっしゃられたとおり、子ども側の嗜好が多様化しているので多くの種類の部活動ができたということと、一方で、子どもが減ってきているところでは、大人数でチームをつくらなければいけない部活動は、存続が難しくなっております。一例でいうと、野球部などは、一つの学校では人数が少ないため、近くの学校同士で合同チームを編成して、一つのチームとして試合を行うというところもあります。部活動を通じて、特に運動部活動を通じて体力向上を図っていきいたいところではありますが、最近出てきた新たな課題としては、そんなことがあります。

## ○鈴木委員

ありがとうございます。

先ほどの、指導課長のお話の中で、部活の力が体力向上のための底上げになっているというお話がございましたけれども、全般に見て、今の時代は部活だけで頑張っているというのは少なくなっていると思います。

みなさんが先ほどおっしゃったように、楽しめるということが体力向上にとっても大切なのだらうと思いました。

今後については、地域と学校ですとか、社会教育の部分でも様々なことをやられている

と思いますから、そういったところの連携、連動などを意識的にやっていくといいのではないかとお話を伺って感じました。

ありがとうございました。

## ○委員長

他によろしいですか。

## ○芳賀委員

先ほど、中学校で運動部に所属していない生徒が参加しやすいような活動を広げていくというお話があって、それでちょっと思い出したことがあったのですが。

去年の12月に、「大田区中学生生徒会代表者意見交流会」という大田区内の中学校全部から生徒会委員の会長さん、副会長さん、書記さんが集まって、池上会館で会議をするという企画があり、視察させていただきました。

その時のテーマは「楽しい学校をつくる」でして、各グループに分かれて議論をしていました。大きく言うと、不登校ぎみだったり、学校が楽しくないような人がいるときに、学校を楽しくするにはどうしたらいいだろうかというのを子どもたちが考える施策だったんですね。

子どもたちの発言の中で「学校を楽しくすればいいんじゃないか」「じゃあ、楽しいことというのは何か」「楽しい企画を立てればいいんじゃないか」とありました。そこで、楽しい企画というものの代表選手として、「スポーツのイベント的なもの」があがります。例えば、クラス全体でみんながまとまって何かできるようなものやろうじゃないかという意見が、あちこちのテーブルで出てきたんです。「ああ、なるほど、子どもたちはやっぱりみんなで一緒に汗流すということが楽しいんだな。楽しいと思っているんだな。」ということを非常に感じました。その上で、私は大人で心配性なものですから、またちょっと別なことも少し考えたりするんです。何となくいじめられていたりとか不登校ぎみになっている子は、そもそもそういうことにうまく参加できないから大変なんで、無理に誘うとまたプレッシャーに思っちゃうんじゃないのかなとか、そういうややこしいことも考えたりしたのです。ただ、うまくいけば確かに「楽しい学校になる」であろうと思って聞いておりました。

次に、「では何のスポーツをやるか」という種目ですが、子どもたちの話し合いでは、大縄跳びがよく出てくるんですね。これも私みたいな心配性は、「大縄跳びというのは、ミスするのが特定の人に集中して、それはそれで結構プレッシャーがかかるものなんだよ。」と、内心思っていました。言いませんでしたよ、子どもたちには。言いませんでしたけど、ちょっとそういうことも感じたりしました。その時に、「みんなが役割をもって参加意識を持って楽しめて、でもミスをしたからってあまり叱られないスポーツ」なんてないものかと思ったりしていたんです。

私は知りませんでしたけど、今回「ニュースポーツ」といわれる「バブルサッカー」とか、「イモムシラグビー」とかを伺って、そういうものがうまく活用できて、「自分はあまりスポーツが得意でないほうだけど、なんか得点に絡めたな」とか、そういう喜びみたいなものがあると楽しくなるのかなと、そんなふうに思って聞いておりました。

以上です。

### ○指導課長

今のお話に関連して、部活動であっても、いわゆる大会や試合に勝つこと目指さない、例えば「フィットネス部」があったり、誰でも、どこでも、みんなが楽しくという視点は、随分広がってきた印象ございますので、今のご指摘を踏まえて、「必ず長縄を跳ばねばならない」などという進め方だけじゃない「体力向上」を考えてまいりたいというように思いました。ありがとうございました。

### ○鈴木委員

今、お話伺っていてずっと思っているのですが、最近、体育でダンスを取り入れるようになりましたね。ダンスというのは他の運動よりは、多くの人を受け入れやすいのではないのでしょうか。メディアでも結構ダンスをやっているのが多いですし、地域の中を見ますと、ダンス教室みたいなものも、小さいながらもたくさんできてきているんですね。

だから皆さん楽しんでいるのかなと思っているのですが、学校での体育授業のダンスの時間というのは、私自身、学校公開などで伺ったときにはあまりお見受けしないんですけれども、どうなんでしょうか。

### ○指導課長

学習指導要領では、「現代的なリズムのダンス」というのですが、いわゆるヒップホップ系のノリのいいリズムについては、それに特化した授業というのはそんなに年間通してできるわけではありません。例えば授業の初めの部分の体ほぐしの部分で、ちょっとダンスで体を温めてから次の活動にいかうとか、ゲームしようというときに活用されている場合が多いというふうに思います。

### ○鈴木委員

ありがとうございます。

### ○委員長

私も最後に。

今、小学校の駅伝大会、中学校の駅伝大会のお話がありました。

中学校は東京都の大会ですので、大田区の28校の中から代表選手を選出して出場するので、これはどちらかと言うと他の地域と競うという意味合いが大きいと思います。

一方、小学校の駅伝大会の場合は全校が出ております。もちろんマンモス校の1,000人を超える学校もあれば、つまり母数が多い大きい学校もあれば、すごく小さな学校もあって、そこが同じ土俵で戦っているというのが現状です。ただ、いつも大田スタジアムで見せていただいて感じるのは、戦っているというニュアンスをあまり出してないのがすごいなど、指導課が相当工夫しているなというのを感じています。

これは1位だから偉いとか、2位だから残念だったということではなく、保護者や応援している人に対して、「最後の最後のチームが入ってくるまで、一生懸命応援をしてくだ

さい」ということを、毎回強く訴えています。ですので、あそこは勝負の場というところではないというニュアンスを果たしていると思うのです。もちろん「勝負に勝つということで、体力を上げる」という目的もありますが、先ほどから委員が紹介くださっているように、駅伝大会をうまく使って、日々学校で持久走をする機会をちょっと増やしてみたり、小学生の場合、休み時間などに先生も一緒に走るということを通して、そこに親しむ機会を与えるということに非常に気を使われているなというのをとても私は感じております。

先ほどの「バブルサッカー」もそうですが、「みんなで楽しむ」という言葉に個人的な意見を言わせてもらおうと、「それぞれが」という言葉がまざってくるようなことを、我々は常に考えていかないといけないかと思っています。「それぞれが楽しめる」ということです。役割が変わることによって、ポジションが変わることによって、必ずしも得点を競うのではないということ、必ずしも勝敗を決するようなものだけではないこと、勝敗を決するとしても必ずしっかりと役割を担った人間が称賛されるというものが出てくるような競技というのは多々あると思いますので、終わりはないと思いますので、それを常に追い求めて各学校と連携を取りながら、「こんなのがあったよ」「いいのがあったよ」という情報交換をしつつ進んでいければいいなと思いました。これは今回の小学校駅伝大会を見ていて、「一番が偉いんだ」ということを前面的に出してないというところについて、深く指導課に感謝したいと思います。

感想になります。

他に何かご質問等ございますか。よろしいですか。

では、報告どうもありがとうございました。

日程はこれで終了になります。これをもちまして平成29年第1回教育委員会定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

(午後2時52分閉会)